

このコーナーでは、病院施設や事業のほか、生活に役立つ“健康豆知識”などを紹介します。

市立長浜病院

がん対策推進室
田久保 康隆

肺がんについて

(検査と治療の最新情報)

肺がんは喫煙者や高齢者に多く、滋賀県でも湖北地方においては依然として多い病気です。肺がんはからだの細胞の設計図ともいわれる遺伝子の異常により発症します。特に日本人の非小細胞肺がんの患者さんには約70%の頻度で何らかの遺伝子異常がみつかり、その遺伝子異常に合わせた抗がん剤分子標的薬がとても良く効きます。

このために、肺がんを診断された患者さんが治療を受ける前には必ず遺伝子異常を検査いたします。代表的な肺がんの遺伝子異常はEGFR遺伝子変異で約40〜50%の患者さんで見つけることができ、EGFRチロシンキナーゼ阻害薬を処方できます。肺がんの遺伝子異常はEGFRの他にもALK、ROSI、BRAF、NTRK、MET、RET、HER2、KRAS、NRG1、FGF

Rなどの遺伝子変異が知られており、患者さん一人ひとり違うので、個々の患者さんの遺伝子異常にピッタリと合った抗がん剤治療を行うことが大事です。これを『がんゲノム医療』もしくは『オーダーメイド治療』といいます。市立長浜病院は厚生労働省が指定したがんゲノム医療連携病院です。京都大学と連携して『遺伝子パネル検査』という数百のがん遺伝子を1回の検査で一気に調べることができます。

抗がん剤治療では、臨床試験の結果に基づいて現時点での最善の治療が推奨され、これを標準治療といいます。分子標的薬の対象となる遺伝子異常がみつからない患者さんは、免疫チェックポイント阻害薬を含む治療が標準治療となります。この薬剤は患者さんの免疫細胞に作用して、がんに対する抵抗力を向上させることで、がんを治療します。

市立長浜病院は滋賀県でもトップレベルの肺がん診療を行っています。かかりつけの先生よりご紹介いただき、上記のような最新の検査と治療をさせていただきますので、まずは肺がん検診を毎年受診ください。

問 市立長浜病院

☎ 68・2300(代表)

「市民からのメッセージ」は、次回は令和6年12月号に掲載します。ご意見やお問い合わせは、ホームページや本庁舎等に設置しているご意見箱からでもできます。

●市政に関するご意見

●広報ながはまに関するご意見
(今後、特集を希望するテーマ)

たに折

年齢

歳 (男性 ・ 女性)

※担当課からの返事をご希望の場合は、氏名・ご住所・連絡先(電話・メールなど)をご記入ください。